

日光の彩色と金工
社寺建築の美しさの謎を解く

The Colors and Metalwork of



Revealing the mystery behind the architectural beauty of its shrines and temples





謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

竹中大工道具館では、2024年9月14日〔土〕から12月15日〔日〕の会期で「日光の彩色と金工―社寺建築の美しさの謎を解く」展を開催いたします。

世界遺産「日光の社寺」は、17世紀の日本を代表する天才的芸術家の作品群といわれ当時最高水準の建築技術によってつくられました。その魅力は、なんとといっても日光東照宮などの圧倒的に絢爛豪華な建築装飾。その輝きは、伝統的な技術を確実に継承し保存修理を繰り返してきた匠の力により受け継がれてきました。

本展では、ユネスコ無形文化遺産として登録された「伝統建築工匠の技」のうち、日光の社寺を彩り、比類のない豪華さを際立たせている装飾技術の「彩色」と「金工」に着目し、その美しさの謎に迫ります。普段は遠目にしか見ることができない、きらびやかな建築装飾の世界と伝統技術の粋をぜひ間近でご鑑賞ください。

この機会に貴紙誌にてぜひ記事としてお取り上げいただきたく、宜しく願い申し上げます。

謹白

2024年7月

公益財団法人竹中大工道具館



開催情報

名 称	日光の彩色と金工—社寺建築の美しさの謎を解く
会 期	2024年9月14日[土]～12月15日[日]
会 場	竹中大工道具館 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
開館時間	9:30～16:30 (入館は16:00まで)
休 館 日	月曜日(祝日の場合は翌日)
入 館 料	一般700円、大高生・65歳以上の方500円、中学生以下無料(※常設展観覧料を含む)
主 催	竹中大工道具館、伝統建築工匠の会
後 援	兵庫県、日光市、二戸市
特別協力	日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社
協 力	日光社寺文化財保存会、社寺建造物美術保存技術協会、日本うし掻き技術保存会、 金沢金箔伝統技術保存会、石川県箔商工業協同組合、鈴木鋳金具工芸社、 浄法寺歴史民俗資料館、TOPPAN
補 助	令和6年度日本博2.0事業(補助型)(独立行政法人日本芸術文化振興会/文化庁)
公式サイト	https://www.dougukan.jp/special_exhibition/nikko_kobe



※展示総数：約100点
(東照宮下神庫建築彫刻4点、彩色作品9点、彩色図6点、
鋳金具15点、東照宮陽明門組物模型、製作材料・道具ほか)



修理中の部材が間近に

日光の社寺の修理交換中の部材を特別出品します。
現地では遠くでしか見ることができない造形を間近でご覧になれます。

2 | 東照宮下神庫 結綿彫刻 獅吻 (17世紀・重要文化財)



3 | 東照宮下神庫 裏股 (17世紀・重要文化財)

きらびやかな装飾を愉しむ

日光の社寺をはじめ、数々の文化財建造物の修理を手掛けてきた工匠による
きらびやかな金工作品・彩色作品の数々が間近でご覧になれます。



4 | 東照宮陽明門貫金具



5 | 東照宮陽明門金剛柵金具模型

6 | 置上経綱極彩色手板



7 | 平経綱極彩色手板

鮮やかな彩色絵の世界

日光の社寺彫刻の修理にあたって、江戸時代より、
将来の修理に備えて色鮮やかな彩色図が描かれていることはあまり知られていません。
修理の副産物である彩色図もまたひとつの芸術の域に達しています。

8 | 東照宮下神庫蓋彫刻および批杷板 彩色見取図



9 | 東照宮神厩欄間彫刻 平彩色見取図

職人技を詳しく知る

作品展示とあわせて、その製作技法を材料、道具の実物展示と写真・映像で詳しくご紹介。
美しさを生み出す職人技の秘密が詳しく理解できます。

10 | 金沢の金箔製造道具



11 | 浄法寺の漆掻き道具

1. 記念講演会「日光の建造物装飾・漆塗と彩色」※WEB申込のみ

日時：2024年8月4日〔日〕 13:30～15:00 (13:00開場)

講師：佐藤則武 (選定保存技術保持者 (建造物漆塗))

場所：竹中大工道具館1Fホール

参加費：無料 (別途入館料が必要)

参加人数：80名 (応募者多数の場合は抽選)

英語通訳：ご希望の方は予約ページにて☑をご記入ください。

申込締切：2024年7月19日〔金〕まで

※定員に満たない場合は先着順にて申込受付します。

2. 実演「日光の彩色・漆箔押し」

日時：2024年9月28日〔土〕、29日〔日〕 10:00～12:00/13:30～16:00 (29日は14:30まで)

講師：日光社寺文化財保存会技能士

場所：竹中大工道具館B2F木工室

※申込不要・見学自由 (別途入館料が必要)

3. 体験教室「伝統的な彩色技法で花文様を描く」

日時：2024年10月5日〔土〕

① 9:30～10:30、② 11:00～12:00、③ 13:30～14:30、④ 15:00～16:00

講師：松村製箔所、日光社寺文化財保存会技能士

場所：竹中大工道具館B2F木工室

参加費：2,000円 (別途入館料が必要)

参加人数：各回とも小学3年生以上10名 (応募者多数の場合は抽選)

申込締切：2024年9月20日〔金〕まで

4. ワークショップ「浄法寺塗でお椀をつくる」

※浄法寺漆を採取する伝統の技は2020年にユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」の一つとして登録されました。本イベントはその登録を記念して開催されます。

日時：2024年11月9日〔土〕 ① 10:00～12:00、② 13:30～15:30

講師：滴生舎 塗師

場所：竹中大工道具館B2F木工室

参加費：24,000円 (お椀代・完成後の送料を含む、別途入館料が必要)

参加人数：各回とも高校生以上5名 (応募者多数の場合は抽選)

申込締切：2024年10月25日〔金〕まで

5. ワークショップ「浄法寺塗のストラップをみがく」

※浄法寺漆を採取する伝統の技は2020年にユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」の一つとして登録されました。本イベントはその登録を記念して開催されます。

日時：2024年11月10日〔日〕 ① 10:00～11:15、② 13:00～14:15、③ 14:45～16:00

講師：日本うるし掻き技術保存会会員

場所：竹中大工道具館B2F木工室

参加費：2,500円 (漆ストラップ代含む、別途入館料が必要)

参加人数：各回とも10歳以上10名 (応募者多数の場合は抽選)

申込締切：2024年10月26日〔土〕まで

6. 実演・体験教室「鍔金具の彫金」

日時：2024年11月16日〔土〕 ① 10:00～11:00、② 13:00～14:00

講師：鈴木鍔金具工芸社

場所：竹中大工道具館B2F木工室

参加費：2,000円 (別途入館料が必要)

参加人数：各回とも小学4年生以上10名 (応募者多数の場合は抽選)

申込締切：2024年11月1日〔金〕まで

《関連イベント申込方法》

ウェブサイトまたは往復はがきにて下記事項をご記入の上お申し込みください。

【ウェブサイト】

公式サイト (https://www.doujukan.jp/special_exhibition/nikko_kobe) 内よりお申し込みください。

【はがき】

[往信用裏面] ① イベント名 (ご希望日時も) ② 参加者氏名 (フリガナ) ③ 郵便番号・住所 ④ 電話番号 ⑤ 年齢 ⑥ 利き手

[返信用表面] 宛先に申込者の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。裏面は未記入のこと。

[申込み先] 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館イベント係

※はがき1通につき1名様までお申し込みいただけます。

※締切以降10日程で参加可の応募者には当選通知が届きます。

※ご記入いただいた情報は厳重に管理し、イベント以外の目的には使用いたしません。



《広報用画像》

- 画像データ1~11 (jpeg) をご提供いたします。
- 画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさいないでください。
- 掲載記事・番組内容について情報確認のためにグラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。
- お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

《お問い合わせ》

「日光の彩色と金工」展広報事務局（竹中大工道具館内）

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

TEL:078-242-0216 FAX:078-241-4713

E-mail: nikko_kobe@dougukan.jp

- ・読者プレゼントとして本展図録5部または開館40周年記念限定チケットペア（2枚）5組を提供することができます。
- ・その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。

当館のご案内

日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大工道具の魅力をお伝えします。また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。

